



岐 蘇 林 多

- 目次
- 樹の齡
- 若き日の思ひ出
- 杉林稀有の大書
- 日本アルプスの寶庫
- 寢覺
- 修養園の精神
- 胡蝶
- 松村先生の書翰
- 劍道大會記事
- 柔道部より
- 大正九年度最終辯論會記事
- 島内先生謝恩金領取報告
- 記念事業釀金申込報
- 會員動靜

大正十三年三月廿五日 第百三十七號 每星期一發行 第三十四種 四月十日發行 第三十四種

人間とは慾に手足の付きたる者をか。と西鶴は云つた。たが至る吾々此慾の多のなならず又際限のないは閉口す。此合此處に十圓許りの御金があるとする。此れで大島袖でも買つて着物を作らたい。と思ひ「此れで参考書を買つて勉強して見たい」でも思ひ「此れで一日何處かへ遊びに行きたい」でも思ひ「此れで國の母に何か珍しい物でも買つてやりたい」でも思ひ「郵便貯金にでもして置かふか」でも思ひ「いや其れより土の中へ埋めて置かうか」でも思ひ「好きな風月堂の羊羹でも買つて思ふ存分喰つてやらうか」でも思ふ。結局其れでどうしやれか知らぬが兎に角其の金を握つた時の慾望状態が良く表れて居ると思ふ斯んな様に其腹の虫に騒がれては十圓紙幣も途方に暮れざるを得ない。生存して居るからには幾多の慾望の起るのは免れぬ。慾望の起るが儘に従て自己の破滅を來さない様に其等の數多い慾望を撰擇して上等な望みに従て行かふとは唯しも心から願ふ處であつて又誰れしも困難を感じる處である。

昔の宗教家や達人の克己傳を讀むとよくも此んな事が出來なと思ふ然しや云ふ達人は非常事を爲すに當り非常の決心を以て爲たから或は想像する程の困難を感せずに出來たかも知れぬ其處で自分は其制しがたい自己の慾望を非常手段で制したらどうかと思ふ早い話が朝早く起きようと思つて頭を出さず寒い、またもぐり込む、遂起される迄寝てしまふ。此時今起きなければ殺されるさ愈ふらふすればいくら暖い床の中にもう少し寝て居たいと云ふ慾望が起きた處でもや命がけて朝寝坊も出來まい。羊羹を腹一杯買つて食度と思つても食へば死ぬと思へば命がけて羊羹を食ふ氣もなれまい。自然有益な本でも買ふ事になるだらう。鶏肉に牛刀の觀あれども習ひ性となり克己自制も容易に出來る様になるに相違ない。

克己と云へば事多しきもない平凡な事であるが此れが完全に行けば一國を制したよりも遠大であると思ふ、言ふべくして行ひ難いは實に克己自制だ、明日から否今から俺は命がけて克己と云ふ徳を卒業する様勉る心算だ。萬の敵を制するは易く心中の虫を御するは難し

樹の齡 菊池 一

でも千五六百年位の老樹は何本かあるらしい。一休樹木は何年頃まで生き延びるものだらうか。丁度人間に種々な生活条件があつて割合に長命なものもあり又短命なものもある様に樹木にも複雑な事柄があるに違ひないかそれでも兎も角一定の壽命があるであらうか。扱て茲では寒氣と壽命との關係を考ひて見やうか。

熱帯地方では樹木の生長は速くて寒帯地方では遅いと云はれてるが一年中では春夏には盛で秋冬に遅い事は諸君の熟知する所である一日で言へば成長は夜半の後に其最高限に達し日中は正午の後に最低限になる之を毎日生長の定期と云ふ。更に温度の方から見るならば普通には零度位が生長の最低で最高は四十度乃至五十度位らしい。又最適温度は二十度から三十七度位、しかし此も植物の種類に依る事であつた。樹木の絶頂では旬松や石南が恐らく零下四五十度に生活して居る事だらう。

温度 生存時間

三三度	一、五分
三二度	二、五分
三一度	四、五分
三〇度	七、五分
二九度	一〇、五分
二八度	一四、五分
二七度	一九、五分
二六度	二五、五分
二五度	三三、五分
二四度	四三、五分
二三度	五七、五分
二二度	七五、五分
二一度	一〇〇、五分
二〇度	一三〇、五分
一九度	一七〇、五分
一八度	二一〇、五分
一七度	二六〇、五分
一六度	三一〇、五分
一五度	三六〇、五分
一四度	四一〇、五分
一三度	四六〇、五分
一二度	五一〇、五分
一一度	五六〇、五分
一〇度	六一〇、五分
九度	六六〇、五分
八度	七一〇、五分
七度	七二〇、五分
六度	七三〇、五分
五度	七四〇、五分
四度	七五〇、五分
三度	七六〇、五分
二度	七七〇、五分
一度	七八〇、五分
零度	七八〇、五分

五日には雪で零下四度を示して山國で、高地である爲に空氣が稀薄で水蒸氣の分量が少ないから従つて夜と日中との温度の差も甚だしい。冬眠と樹齡、氣候の激變と樹齡、降雪と樹齡等、面白い問題は吾人の研究を待つて居る。

若き日の思ひ出 (京前)

如何にその名の美しく、げにやさしいことだらう。然し金や戀で果して我々の心の凡てか慰め得らるゝだらうか？ 若し慰め得る人があつたらばならはるゝ人は果して自分の職務に忠實な人だらうか？ 我々の重なる使命を知らざるが故に止むを得ず金や戀で心の凡てを慰めやうとするものではないか？ 嗚呼人の願ひは果して金だらうか？ 戀だらうか？ 否々金でもない、戀でもない、喜びでもない、悲しみでもない、唯々國家のため世界人類のために勉め働いて眞に生甲斐のある生活をする事ではないか？ (こんなつまらぬ事を書いて貴重な紙面をふさいで申す譯ないから「若き日の思ひ出」は此れ位で止めて以下山中の慰安に付

て少しく述べて見やう)

風は何處から来て何處へ行くのだらう？ 雲は何處から湧いて何處へ消え去るのだらうか？ 果してなき大空にユラユラと立ちのぼるかまどの煙は遂に何處へ行くのだらう？ 否それよりも我々は何のために此の世に生れ何しに此の世へ来たのだらうか？ 哲學者ならぬ私には、ひねもす首をかしくともわかるべき筈はない。然し人は遂に死すべきものだといふ事だけは事實だ、して見れば我々も今日から幾年かの後には此のかりの世を去らねばならぬ。

悠久なる宇に比べれば僅か一瞬に過ぎざる我々の一生……、噫その短き生を誰か食らないものがあるだらうか……！ 朝に夕に念佛を稱へらるゝ、事老いた人々に「地獄と極樂とどちらがよいか」と問ふたならば直ちに極樂がよいと答へらるゝ、だらう(地獄極樂は此の世にもあるけれど私の言ふそれは死して後のことである) その時重ねて「極樂と此の世どちらがよいか」と質問したならば果して何を答へらるゝ、であらう、しばらく考へた後「出来るだけ此の世に永く生きて死んだら極樂に行きたい」と答へらるゝ、に違ひない。噫、何といふ生の執着だらう。年老いた人々ですら斯様であるから若き人

々の生を食はるゝも無理はない。その我々が山中で生活しやうとするにはどうしても其處に何かの慰安を求めなくてはならぬ。

人々に依り又は周囲の事情に依つて一概にはいへぬけれど誰しも必要なのは先づ自分の職業に興味を持つ事だと思ふ。私も赴任した當分(二年間位)は別に慰安となるやうなものも無く何時も淋しい淋しいで月日を過して居た爲めに山から逃げ出したいやうな事さへあつた。然し二年三年と過ぎる中にだん／＼林業に興味を持つ様になり今では益々研究して見たいといふ氣になつた。

その次には何れの宗教を問はず安心立命の点迄は信仰して置く必要があると思ふ。佛敎は死の道ではなくして、死の道にある者に向つて生の道を教ゆるのである。念佛は悲しみの道ではなくして悲しみにある者に向つて歡喜の道を教ゆるのである。人生のもの、は悲哀である無情である、然し如來によれる信者はこの間に歡喜があり、希望があり、勇氣があり常に清新なる人生を樂しむ得る事が出来るのである云々(佛書より) 其他音樂もよからうし、讀書するもよい、棋、將棋の如く相手を要するものよりは相手不要せざるものに趣味を持つ事我々山中生活者には必要な事だ。

杉林稀有の大雪害

大阪府南河内千早外五箇村

二月三日大雪で大阪府南河内郡千早、赤坂、川上、天見、加賀田、高向、六ヶ村の民有造林に大雪害があり、府の産業課では此の程來技師を派し被害の實狀を調査中であつたが二十四日全部の調査を終つた。被害面積約四千町歩、損害總額五百萬圓といふ多大な額に達し當業者は此が善後策に腐心し居る。右に付き天野林業技師の語る所によると最も甚だしいのは千早村で被害面積千町歩、内約五百町歩は一本も残らず折れ倒れ全く月も當てられぬ慘狀を呈して居る。被害樹木の大部は杉で約一割が扁柏であるが樹齡は二十年乃至三十年生のものが最も多く其他十七八年生から四十年生のものもある。かゝる莫大の雪害は近年にならぬ事であるが、單なる雪害のみならず氣候激變のため降雪が樹葉、樹枝等に凍結しその上に降雨あり又夫が凍てたといふ譯で重量が無暗に大きくなり、ために此の慘狀を見るに至つたものらしい。甚だしい所は一分間に四十三本、三日から向ふ三日間に亘り晝夜連続して折倒したのを聞いたといふ。兎に角其根本原因は降雪の少く且つ地餘の

異つた吉野地方での造林を真似て非常な密植を行つたのである。此れに鑒み今後は除伐間伐を勤行せしめ土地に適した造林方法を徹底的に奨励しなければならぬ云々

日本アルプスの寶庫

有望な官行材

松本小林區署の事業

本年の搬出廿五萬圓の見込 日本アルプスの寶庫鳥口に於ける松本小林區署直營の官行材事業は年々頗る有望で廿年計劃一ヶ年二萬石宛伐り出し本年は丁度其第四年目に當る鳥々から鳥々川を溯つて二里二股事務所迄の軌道を昨年より更に上流一里の岩止迄延長したので材木搬出上の便宜は此の上も無く能率を高めた上高地附近を中心とし日本三大美林の第一と云はる國有林丈けあつていかに伐採しても後から人工植林若くは天然林の爲め無盡藏とまで専門家から觀られて居る樹種はモミ、ツガ、トウヒ、シラヒ、姫小松、白カンバ、タケカンバ、ミチバネ、ハンノキ、これらが最も多く併も其の良材である事は實に全國に冠たりで殊にトウヒに至つては他に比ぶべきものがない

た。人夫は地元から二百人飛驒方面から百人都合三百人位を募集すべく本年は軌道三里の上流に更に木馬の設備を爲すと云へば搬出の能率を一層高むべく昨年は洪水の爲軌道を破壊されたりして五千石程を余したから本年は其分共二萬五千石(時價廿五萬圓)を搬出する意氣込である(長野新聞)



寢

浦島の子

○過日雪中行軍の御供をして上松に到りたせやの二階で櫻肉の御馳走に預つて腹をこしらへ寢覺の床見物に向つた
○臨川寺の庭から見下して寢覺の景色ももう駄目だと思つた
○元來寢覺の風光の美は彼の山岳森林戸岩及河流等の交錯連接によつて形成せられて居たもので個々別々に離してしまつては殆ど美なる價値なきも集團して調和し初めて居たのである
○而して凡て風景の美なる所以の根底は主として形彩色音響の三者に存して居る
○戸岩のそび立ち河水のうねる形岩上の松對岸の檜流れ天空などの色岩に咽ふ流の音之等が相よりて寢覺の風景美を完成して居たのである

○天空は昔ながらの色を示して五七十年を一期とする人間に永劫のタイムを偶はしめ河床に聳立する巨岩は頑として動せざる男性的姿を見せ共に吾人に二層の美を感せしめるけれども見よ、對岸の檜林を更に俯して見よ下の河水を
○對岸の檜の森を僅に猫の顔程の地積丈残してあどは若干の黄金とかへられタバコの烟と消えてしまつた、更に甚しきは河水である、あの河水を上流に於て一口に呑みほして黄金の尿を下痢して居るではないか
○而して寢覺風景は今や殆ど其の價値を失ひつゝあるのである
○スタートに於て誤まつて居る——精神文明を伴はない不具な物質文明の爲に至る所の風景は破壊せられて居る、寢覺の床も其の一である
○水流が岩をかんでしぶきに虹をにほはせた寢覺に流る水が石に咽んで妙なる音楽を奏でた寢覺！其等が一片の思出語りとなり昔語りとなり仕舞ふのも遠い將來ではあるまい
○電氣會社が十萬の電燈を屬り得た報償として木曾は天下の絶景寢覺の床を失はねばならぬ
○人々が只物質方面に丈傾いて居る、此の儘で推移したなら日本の將來は如何なるであらう、心ある人は此際如何にか考へねばならぬ

修養團の精神

我が健國の精神は、地球上王道を布くにある。我が修養團の使命は、流汗鍛練同胞相愛の實行より皇國の進運に貢献するにある。此の使命を果さんが爲め、全國の村々町々、工場、會社、學校、官衙等に散在する愛國の志士と提携して善の勢力をつくり、正義の輿論を作興せんと欲するのである。今や世界改造とか、社會改革とかいふ聲が高い。その或る議論は實行に適しても、他の議論は社會の潰滅を來すやうなものもある。それが何れにあるにしても、放恣安逸を打破する剛健的精神、奮闘努力を高唱する向上的志氣、同胞相親しむ相愛の心情、之を實行せんとする修養團の主張、心身鍛練、流汗力行、同胞相愛の精神を普及し徹底せしむることが、人類の幸福であるといふことを拒むものはあるまい

も社會の平和も人間一切の光明を歡喜とば愛と汗とにはつてのみ得られるものであると宿する
故に「自己の品性を向上せしめたい」「國家の現状を何とかしたい」といふ人々を結束し共に勵むは合つて愛する皇國を改善し充實し發展せしめる。是が修養團の精神である。希くは修養團の精神に共鳴する先覺の士、貴下の加盟により善の勢力に一人の力を増されん事を
○額に汗せざる者は道を談ずる資格無し
○國家の前途を如奈せん
修養團は明治三十九年二月十一日創設され大正九年に於て急劇な發展をした。年頭二萬の團員一年末五萬となつた。餘りに膨張が烈しすぎると注意されたそうだが如何にも其の通りである。修養團將來の爲めに考へて見れば斯の如き發展は慎むべきであらう。けれども修養團本來の使命を思ふ時どうしても手を弛める譯にゆかぬ
修養團は愛國熱々の志士が祖國の健實なる發展を期せんが爲め政黨派を超越し、宗教派を超越し地位身分年齢財產等一切のものを超越して互に手を握り合つた團體である。愛する國家の爲めならば何時でも一切を献げようと固く誓つた同士である。吾等は國家滅びて修養團存在することを欲しない。國家さへ健全な發展をして修養團の必要な時が來たら何時でも解散出来る。唯だ國家の現狀はどうしても憂慮に堪へぬ

修養團の精神を一日も速く行き渡らせねばならぬ必要を深く感ずるが故に今日の活動の微温さを憾む。修養團の主義主張は明瞭である。善をなすには積極的なるがよいと信するが故に堂々と修養團を紹介する。世間の誤解や悪感怖れて居ては國家の前途を如何せん
○誇るべき未來
青年は過去を忘れ、何時も新しい希望をもつて次から次と自らを引き上げて行かねばならぬ。過去にのみ戀々たるは老婆の事である。學生時代に縣知事さんから賞品を貰つても、それが現在の不眞面目を辨護する理由にはならぬ。吾人は家系を尊重する。併しながらいくら褐色になつた巻物を取り出して我こそは何千石の御武家の何代目だと威張つても、夫れが現在の不誠實を辯護する材料にはならぬ。吾人の過去を誇るべからば更に誇るべき未來を作らねばならぬ。吾人の過去が悲しむべくは前途をして悦ぶものたらしめねばならぬ。之れまで失敗したならば本日より成功せねばならぬ。徒に悲觀したり失望したりする者を觀る毎に意氣地なく感ずる。どうしてそんなに元氣がないのか失望したといふのは勇氣が自殺したと云ふ事であると思はれる。内なる元氣が溢れてこそ眞の向上がある
○此の意氣
物質不滅吾々の努力亦不滅。與ふれば必ずかへる之亦眞理。吾等が全生涯を我が國林

友林蘇岐

業界の爲め否全同胞の幸福増進の爲め捧げたい...

胡蝶よ

1 あた、かさ、自然のバラダイス、なか中楽しく遊ぶ胡蝶よ...

北村先生書簡

新年には賀状を戴き誠に難有存じます、拙宅も一同無事第三回目の臺灣正月を迎へ...

多忙のため自然御無沙汰勝になること、思ひますが何卒舊に變らず御厚情の程御願致します...

劍道大會記事

例年の通り二月十二日紀元節をとして吾校劍道大會を開催す...



友林蘇岐

紅白勝負終り番外三本抜を行ふ...

柔道部たより

只さへ寒い木曾谷よ、雪は訪れて来る日も...

- 紅軍 海老澤君、林(廣)君、川上君...

- 白軍 松島君、松島君、山ノ内君...

大正九年度最終辯論會記事

木曾谷の深い、雪に埋められて何處迄も万物は萎縮の状態を是非なくせしめた...

若い吾れも外面に生氣を失ひ只心の内に寒さと戦ひつゝ有る小さな光を認めて居たのみ陽光に光りつゝ雪溶けの年の三滴などど落れば心の光明にも一滴の感動を熱を増して来る、昨今の雨にめさつゝと温みを醸して来た風う期待して居た春の焔に踊るが如くに點火して何物をも燃盡さんとする吾等青年の意氣をして壇上の花となさしめんとして廿六日午後をとりて本年度最終辯論會を催した諸賢の名論快にして壇上の氣焔を巻き上げ聴者をして拍手喝采の盛大裡に無事午後六時會を閉じた先づ副部長中島君の開會の辭にうき諸辨士登壇

◎人は何故に生れたるや

一 太田幸保
人が此の世に生れて互に欲する成功心の養成法を説き而して富を得るも成功ならんと世人は心得共富は決して成功の目的にあらずして一つの手段なりと論じて降つた、評 仲々意味有り氣な事を話した而して君に實力の三字を呈す

◎論題未定

一 加藤浪男
私は理想に付て論ずと題して現代の青年は理想を欠き居る事より理想の必要を滔々として論じ最後によろしく理想に生くべしと結ぶ

評 語調早き為聴者をして充分なる理解を與へなかつたのは遺憾とす

◎不幸が來りし時の觀念は如何

伊佐治彌兵衛

愛嬌を洩して登場不幸の來た事なる事は前より覺悟して居て若ん來たる時は泰然自若の態度を以つて不幸に當れど論じて降壇す評 態度女性的に出られたるは未だ修養の價値有り

◎木犀の花

二 片田敏郎
木曾の雪に埋れたる淋しい冬野に立ちての觀念を述べ其の下に平和の春を待つ枯草有り彼れは己の苦しみを凌ぎて來たる待つつを社會の平和と戰爭とに延うて此の中に巧に人道を交ぜ説き七結を取る

評 君にして今少し腹の底より聲を出し態度を自然に置きなば將來有望の雄辯家たらん

◎去るに及びて

三 長谷川要治
一學年へ入學以來今日に至る過去の行路は無意味の數々を繰り返したるを悔ひ團子をすくひごもく取れないもので有つたと言ふや(聴者の中より世の中は軌跡なりやと叫ぶ)自分の残したる跡なきは今更年ら懺悔の涙にくれて居る。此の學校の責任者たるべき君等はどうか學校を愛し國を愛して何處までも愛に生きよと論じて降壇す

評 君は社會に出て大いに愛に生き給ひ出來得る限り學校の改善發展を計らん

◎眞の人格者

一 多田駒藏
靜かに登壇。うか／＼と一生を暮して恐ろしき死に襲はるゝや人格の足らざる時始めて人生の悲みを知るゝと人格の必要を説く評 好文家たゞ君に雄辯者たるべき能無きを惜む

◎肺病患者の武裝

二 宅見剛二
我國の狀態として内に有りて産業の發展をなさずして外觀を裝う兵力の擴張は丁度肺病患者の鏡をつけたるに似たらすや如何に堂々に見ゆるとも内に欠点有りて何の力有りやと喋々として尾崎氏を論じ米國の財産を我國に比較して論を結ぶ

評 聲震的にして徒らに聴者の耳を勞したるのみ

◎明治神宮のお話

吉川先生
明治天皇の御盛徳の大なるを話され明治神宮の經營話及明治神宮の參拜者の盛大なる有様を論じ斯の如き故日本帝國も未だ大丈夫なりと結びて降壇せらる

評 聴者をして聖徳に感泣せしむ

◎人生の樂

一 原金一
若は樂の種と言ふ主義に人生の樂しみを論ぜらる

評 雄辯は聲に有り君に之れ無きを悼む

◎如何に感情を満さんか

二 山田富夫
平和なる感情より沈んだ感情を述べ激昂したる感情は如何に満さしめんか自己の理解にありと論じて降壇

評 論要を得しも平日の意氣無く聴者の期待に裏切りしは甚だ遺憾也

◎飛入り

三 井戸利夫
月の光り如何に輝くとも他より受くる光なり星は小さくとも自ら光る諸士も自ら光れど修養團特有の語論さる

今では光はまばゆい位になつた空には飛行機海には軍艦以上は果して人類の幸福か之れ題意による呪はれつゝある人類なり。今日にては文明の光あまらばゆき為物質の世となり却て退歩しつゝあり。其れより世の中を上流中流下流に別ちて生活状態及心理状態を述べられ婦人問題に入り婦人の誤つた覺醒のために子供は犠牲となる論ぜられ來いで政治家教育的宗教家の腐敗を説き最後に社會を農夫の耕作地に例へ如何に種子を残す時は雜草を取除くに何んの價値ありやと結ぶ

評 聴者をして倦ましめざりしは先生の雄辯家の所以なり

田中 先生
人生の最大快事と題して論ぜらる

評 先生の文は内容美にして既に此に於て快を覺ゆ

安藤先生
人物事は解し様によると題して(快樂を求めると苦しみ)のなからん事を期するが人生なり)之れに付て論ぜられた

評 初めての雄辯を聞いた益々辯論部のために御盡し下さい

樫の林

中村 先生
丁抹國の彼の極小なる本國を以て海外に領地を有し國富一人宛にすれば世界一とまでなりしはダルクスといふ一青年の力によつて樫の林が苦心に苦心を重ねて成功せし

めた爲である、と論ぜられ宜しく諸君も日本のダルクスになれん事を希望すると結ぶ

評 先生には辯論部顧問責任正御心付けあつたのか内容豊富にして聴者をして趣味に開かしめた

偶 感

一 川尻吾碩
共同一致の精神を養へと論ず

評 落付きたる点は結構然し強いて望めばもう少し元氣が欲しいものだ

平和について

一 大池澄雄
平和について起る社會の狀態を論じた

評 君は聲を最う少し自然的にたのむ

本氣にならなければ物事は不成功に終ると論じて降壇

評 君は修養團員だけに感激した態度であつた

春 光

今野啓藏
自分三ヶ年間の執り來りし欠点の告白をなし而して春の如き暖みの愛を教師生徒の仲に欲しいと論じて降壇

評 君はあまり熱し過ぎて内容不明となり却て君を下く見せしめた

希望

副部長 中島省三
將來の辯論部に對し先生方は冷かな態度に出られない様にと希望して降壇

評 君一ヶ年副部長としての職に勵まれ且つ去らんとして此の心あるを感謝す

過去三ヶ年を願ひて

【 9 】

友林蘇岐

評 君は辯論家と言うよりも屁理屈家也

◎飛入り

二 異村万平
編輯部は晝寝をして居るのが老衰したのか聴者は十五錢の菓子に釣はれて居る辨者は雜誌査抜記事の朗讀するよりもよく改革すべしと叫びて結ぶ

評 大いに辯論部の改革は双手を擧げて賛成したい然し君は非を擧げて万事を捨てしは容るゝ器の小なるに非ずや

◎飛入り

藏尾 先生
人間は平行線なり何處までも人間は人間也万事隠す事無く愉快に世を赤裸々に渡れと論じて降壇

評 隠れたる辯論の名士なき益々會の發展に盡力を乞ふ

◎飛入り

三 松原松男
酒と題して論ぜられた

評 君は新思想と舊思想との衝突を説かれたならんけれども内容充實を欠きたるため聴者をして不理解に陥らしめた

◎飛入り

三 村松一郎
平凡の徹底と題して説かれた

評 君社會に立たれて意志の徹底を祈る

◎呪はれつゝある人類

菊池先生
語調靜かに(一)に立つは甚だ光榮)と言はるゝや一段聲を高めて(さて人類の過去は祖先の爲に次第に發展して漸く希臘の文明迄來た之れは小さなローソクの光りの如き文明の光であつた、光は次第に擴つて地球上に起る物理學は先づ發見せられた。

友林蘇岐

部長 片桐英雄
 部長の職を果すに及び何んたる跡をもとめ
 ず然し自分は辯論部の改革に希望を持つた
 然し時間短縮の運命になりてあわれ若草の
 芽を摘み取るが如く無断に希望も屈せられ
 てしまつたと過去の責任を論ぜられて降る
 評 君の志今日にして成りずと及ばず乍ら
 辯論部の發展に盡力せんことを期す君
 部長としてよく辯論部のために盡され
 しを感謝す
 時午後六時部長片桐の閉會の辭にて解散す
 評者曰く
 「諸賢の名論に對し理解の徹底さへ欠ける
 頭を以て評をなしたる事を恥す
 然して評者の論評は岳堂兄も煩じたり」
 評者 山田生 終り

島内謝恩金領收報告

- 一 參圓九拾錢 第三學年生39人
- 一 四圓貳拾錢 第二學年生42人
- 一 參圓九拾錢 第一學甲組39人
- 一 貳圓九拾錢 第一學生乙組29人
- 一 九圓貳拾錢 寄宿舍生92人
- 一 參圓 三原忠一殿
- 一 五圓 田近善右衛門殿
- 一 壹圓 木村榮一殿
- 一 貳圓 岡西 猛殿
- 一 貳圓 岡西萬秋殿
- 一 參圓 吉田良惠殿
- 一 參圓 伊藤 厚殿

- 一 貳圓 各務傳六殿
- 一 貳圓 篠原將英殿
- 一 貳圓 米山芳郎殿
- 一 貳圓 飯沼要人殿
- 一 參圓 宮島岩見殿
- 一 壹圓 佐々木久一殿

長野縣水會山林學校創立 記念會記念事業釀金申込 報告書

- (第一回報告申込順)
- 金七圓 久保田傳一郎殿
 - 金七圓 樋口 德一殿
 - 金八圓 小池 新伍殿
 - 金七圓 原 耕 民殿
 - 金六圓 富士川金二殿
 - 金五圓 鈴木、靜夫殿
 - 金五圓 由尾 忠輔殿
 - 金五圓 長谷川 毅殿
 - 金拾圓 小松 良輔殿
 - 金拾圓 村上安太郎殿
 - 金拾圓 高野 薰見殿
 - 金拾圓 廣 井 昇殿
 - 金拾圓 大森 久治殿
 - 金拾圓 米 山 修殿
 - 金拾圓 原 英 雄殿
 - 金拾圓 岡西 謙三殿
 - 金拾圓 金田 美行殿
 - 金拾圓 千村彌之助殿

- 金拾參圓 小林 秀一殿
- 金拾圓 與原吉右衛門殿
- 金拾圓 家高 甚一殿
- 金拾圓 長谷川義雄殿
- 金拾圓 小池金三郎殿
- 金八圓 千村 重喜殿
- 金拾五圓 高柴真次郎殿
- 金拾四圓 松島 九平殿
- 金拾圓 倉澤 建雄殿
- 金拾圓 宮川 永三殿
- 金拾圓 中島 要人殿
- 金拾圓 宮下 信一殿
- 金拾圓 新井喜多雄殿
- 金拾圓 兒野 恭市殿
- 金拾圓 水野 忠一殿
- 金拾圓 西尾 嘉一殿
- 金拾圓 白井 辰雄殿
- 金拾圓 千田 政美殿
- 金拾圓 與村 利一殿
- 金拾圓 平 田 實殿
- 金拾圓 岡田彌兵衛殿
- 金拾圓 塚本 三樹殿
- 金拾圓 丸山 久雄殿
- 金拾圓 松井 定道殿
- 金拾圓 青木 忠太殿
- 金拾圓 吉川 光夫殿
- 金拾圓 吉村金次郎殿
- 小計金四百四拾九圓也
- (申込順) 市岡淳一郎殿

友林蘇岐

- 金拾圓 宮下正三殿
- 金拾圓 喜多村 明殿
- 金拾圓 古畑今朝茂殿
- 金貳拾參圓 蜂須賀忠四郎殿
- 金五圓 三尾 貫三殿
- 金拾圓 但馬 廣造殿
- 金五圓 箕部 覺明殿
- 金五圓 安藤 次郎殿
- 金五圓 種倉 隨藏殿
- 金五圓 杉 本 直殿
- 金拾貳圓 小崎 次郎殿
- 金拾五圓 木村 康明殿
- 金拾圓 北川 信美殿
- 金貳拾圓 二木 季人殿
- 金貳拾圓 佐藤 一郎殿
- 金貳拾圓 上條嘉一郎殿
- 金五圓 小林 愛司殿
- 金拾五圓 岡山 益喜殿
- 金拾圓 佐藤 誠一殿
- 金拾圓 池口 福雄殿
- 金拾圓 直井 利雄殿
- 金拾圓 廣瀬靜之進殿
- 金拾圓 川口勇二郎殿
- 金五圓 石曾根四郎殿
- 金拾圓 古畑 要可殿
- 金拾五圓 川崎 本雄殿
- 金拾圓 野知里慶助殿
- 金參拾圓 遠藤 宗作殿
- 金五圓 村松 一清殿
- 金貳圓五拾錢 原 貴 一殿

- 金貳圓五拾錢 新 榮太殿
- 金拾圓 永 井 順殿
- 金貳拾圓 福田友次郎殿
- 金拾圓 篠原 將英殿
- 金五圓 宮森太一郎殿
- 金五圓 飯沼 要人殿
- 金七圓 伊藤 芳郎殿
- 金拾圓 各務 傳六殿
- 金參圓 關谷 靜夫殿
- 金五圓 宮崎 光治殿
- 金五圓 早川 嘉一殿
- 金五圓 山下不二三殿
- 金五圓 武居喜太郎殿
- 金拾圓 水橋 要作殿
- 金拾圓 岡庭 泰平殿
- 金拾圓 佐々木久一殿
- 金七圓 上田彌太郎殿
- 金拾圓 武 居 章殿
- 金五圓 山崎 兵平殿
- 金拾圓 高峰 傳治殿
- 金五圓 千田 瑞穂殿
- 金拾五圓 市 川 潔殿
- 金拾圓 高野 金作殿
- 金拾圓 中畑 佐耕殿
- 金拾圓 内田新之助殿
- 金五圓 原 治 二殿
- 金五圓 和田 實己殿
- 金拾圓 宮入 汎省殿
- 金五圓 蘆澤 庸三殿
- 金拾圓 池 美 雄殿

- 金拾圓 木村音次郎殿
- 金拾五圓 糸魚川良二殿
- 金拾圓 宮澤 嘉一殿
- 金五圓 田 中 一殿
- 金拾圓 移藤 豐吉殿
- 金拾圓 上田 鍾二殿
- 金拾圓 吉田佐十郎殿
- 金拾圓 勝田 義正殿
- 金五圓 小池 常三殿
- 金五圓 征矢 朴郎殿
- 金五圓 内山伊那登殿
- 金八圓 宮島 岩見殿
- 金五圓 村上 英男殿
- 金五圓 坂田勘太郎殿
- 金拾圓 都竹武次郎殿
- 金拾圓 遠藤治一郎殿
- 金五圓 平田久良治殿
- 金拾圓 南村 末吉殿
- 金五圓 宮 澤 功殿
- 金拾圓 中村 豊治殿
- 金拾圓 河島 憲一殿
- 金拾圓 和田 宗吉殿
- 金拾圓 鷺澤 忠治殿
- 赤 羽 高殿
- 小計金八百貳圓五拾錢也
- 但三月十四日迄申込の分
- 計百三十名殿の分

一、申込期限 大正十年四月三十日限

一、送金方法 (振替口座、高尾三五五番)

長野縣木曾山林學校創立記念會宛

御注意

林友代は左記振替口座に依り御送金を

金乞ふ

一、振替口座(東京一七六〇番)

長野縣木曾山林學校宛

拜啓初春の砌益御健勝奉賀候林友記念號
發刊に就ては名實共に最も權威あるものと
し耻ぢざる様に致すに於ては聊か原稿の不
足を感ずるに至るならんと被存候就ては乍
潜越過般も御願致置候通各位の御投稿相
成るものとして豫定を立て相當計割致居る
次第正有之候間何卒事情御賢察の上原稿、
(祝辭、論文、所感、和歌、俳句等)を四月十日
迄に御寄贈相成様願度此段得貴意候 敬具
大正十年三月

木曾山林學校 創立記念會

會員動靜

- 北村 正夫師 前職を離れ臺灣臺中州南
投那布殺街に居を定められ某三家の林
業經營擔任せらる
- 市川 潤君 靜岡縣田方郡上狩野村帝
林局天城出張所に轉任
- 藤田 義正君 名古屋南熱田區屋橋西詰
名古屋木材株式會社に移轉
- 千田 瑞穂君 神戸市明石町大坂商船株
式會社神戸支店建築場内大林組神戸出張
所に轉任
- 奥村 和吉君 沖繩縣廳轉任
- 杉本 純平君 東京麹町區飯田町五ノ三
國見米雄方に住居
- 鈴木 正雄君 靜岡縣榛原郡上川根村千
頭出張所に在勤
- 平 田 實君 本郡檜川村役場に轉職
- 小石 彌三郎君 東京市京橋區月島仲通十
ノ二に住居
- 若澤 庸三君 東筑摩郡蘆尻村機敷中島
方に轉任
- 中 津 楊君 長野縣警察部に轉任
- 宮崎 光治君 北安曇郡中土村に住居
- 多田 廣次郎君 山梨縣原分擔區に轉任
- 伊藤 昇次君 北安曇郡大町に住居
- 富士川 鏡一君 福島町に住居
- 柳原 武重君 下伊那郡伊賀良村に住居
- 吉川 光夫君 木曾王嶺出張所に轉任
- 遠山 虎雄君 豊橋歩兵第六十聯隊第七
中隊第二班に入らる

- 西村 清志君 上伊那郡西春近村に住居
- 小林 愛司君 福島町に住居
- 村井 正三郎君 宮下と改姓福島住居
- 吉村 幸助君 宮城縣仙臺市北六番町仙
臺小林區署に轉任
- 手村 吉雄君 北海道札幌市帝林局札幌支
局に轉任
- 鈴木 靜夫君 林務講習にて出京東京
本郷東竹町三三岩谷旅館投宿
- 田中 一君 林務講習にて出京東京本
郷東竹町三三岩谷旅館投宿
- 木下 稔君 横濱花咲町住居せられ肆
藏と改姓せらる
- 野木 美嘉君 北海道廳林務課に轉任札幌
區北四條西七丁目三番地住居
- 關谷 靜夫君 靜岡縣加茂郡役所に轉任
- 木村 音次郎君 下伊那郡鼎村飯田町外三
ヶ村山林事務所に轉任
- 前野 慶一君 木曾支局に轉任
- 立道 乙松君 三重縣名賀郡國津村神屋
に住居
- 林省三君 茨城縣多賀郡高萩小林區署
に轉任

林友代領收

- 金叁拾六錢
- 金壹圓五拾錢
- 金貳圓
- 金壹圓五拾錢
- 金田 美行君
- 吉川 光夫君
- 伊藤 榮郎君
- 佐々木 久一君

大正十年三月廿三日印刷
大正十年三月廿五日發行

長野縣西筑摩郡島町四〇四番地 正 夫
長野縣西筑摩郡島町三八九番地 書 店
長野縣松本市小柳町八十五番地 吉 藏
長野縣松本市小柳町八十五番地 川 廣

長野縣松本市小柳町八十五番地 吉 藏
長野縣松本市小柳町八十五番地 川 廣

【定價金參錢】